



第9回

日本放送作家協会賞

昭和44年5月23日

於 銀座電通ビル8階ホール

社団法人 日本放送作家協会



「ひょっこりひょうたん島」

N H K



制作 NHK教育局青少年幼児部
 脚本 井上ひさし、山元護久
 演出 花房実、椿信夫、武井博、渡辺治美、雪正一。
 人形操作 人形劇団「ひとみ座」。人形デザイン 片岡晶
 昭和39年4月からはじまり昭和44年4月4日に終了した。六年の長い間に子どもだけでなく多くの大人にも親しまれ従来の人形劇にない新しいこころみを数多く用いて、常に新鮮な印象を与えてきた。

最優秀番組賞

選考経過

久板栄二郎

本賞は、対象がドラマ、ドキュメンタリー、教養、大衆芸能など、種類が多岐にわたり、また連続・単発など、枠もさまざま、そのなかで優劣をつけるのは困難なことです。

協会全員に二回にわたってアンケートを送り、その解答を集計して、まず十二本を予選しました。それを基礎にして、テレビ文化の向上にプラスしたもの、新風を吹き入れたもの、という基準により、選考委員会は慎重検討の結果、次の通り決定しました。

- 「ひょっこりひょうたん島」(NHK)
- 「私の昭和史」(12チャンネル)
- 「ひょっこりひょうたん島」は、児童向け



「私の昭和史」

東京12チャンネル



制作 東京12チャンネル報道部 プロデューサー 井田麟太郎、ディレクター 小林久雄、福良好申。きき手 三國一朗。
 昭和39年4月、12チャンネル開局以来現在まで続いている番組で、今週で二六五回をむかえた。昭和史というむずかしいテーマを、あらゆる階層の人間を通して、親しみやすく、わかりやすく紹介し、書物では汲みとることのできない生の人間の歴史をつづってきた。

番組ですが、理想と豊かな夢を湛えた、さわやかな脚本構成と、美術・音楽・演出等に於ける創意と新鮮な感覚により、大の観賞にも耐える番組として、七カ年の長期にわたってその誠実な制作態度を持続した努力に対して。

「私の昭和史」は、地味なテーマに真正面から取りくんだ企画態度、毎回広い範囲からデータを集め、それをたくみに総合した構成力、及び、三國一朗氏の親しみ易い司会ぶりにより、深い内容の現代史を、くだけた表現で紹介普及した功績に対して。

尚、アンケート解答で上位、審査委員会で好評だった番組として「明治百年」(NHK)「文五捕物絵図」(NHK)「ポーラ名作劇場」(NET)「みつめいたり」(フジ・テレビ)「木下恵介アワー」(TBS)「日本の素顔」(日本テレビ)などがあったことを附記します。

演出者賞

「ポーラ名作劇場」

演出者グループ

N E T



昭和43年度中の「ポーラ名作劇場」の作品は「花のながれ」平岩弓枝作・矢代静一脚本・吉武富士夫演出、「坊ちゃん」と私」菊田一夫作・小幡欣治脚本・勝田康三演出、「積木の箱」三浦綾子作・八住利雄脚本・須田雄三演出、「おもんの愛」水上勉作・矢代静一脚本・田中利一演出、「夕焼け空」野田高梧、小津安二郎作・松山善三脚本・八橋卓演出、「ぎんぎんぎらぎら」瀬戸内晴美作・田村孟脚本・久野浩平演出、「霞」水上勉作・松山善三脚本・山内和郎演出、「長い坂」山本周五郎作・鈴木尚之脚本・河野宏演出の諸作品である。

演出者賞の決定まで

菅原 卓

結果として、テレビ部門を、「ポーラ名作劇場」の演出者グループ(N E T)に、ラジオ部門を香西久君(N H K)に、受賞してもらうことに決めた。

選考委員は、砂田量爾、長尾広生、本田 颯、水原明人、山下与志一、若杉光夫の諸君と私で構成し、連絡をとりながら、第一回の候補者をえらび、会員に対して、さらに追加を求め、アンケートを集計した。

そこで出てきた演出者名は、河野広、鈴木利正、平松敏男、沢田隆治、戸崎春雄、大熊邦也、都築忠彦、岡敦子、香西久、鈴木久尋等の諸君であり、それぞれに、多数の票を獲得されている。

このデーターを基礎として、最終決定を協理事に提出するために、われわれ委員は集り、さかんに討論をやった。当然のやうに、今日の放送の実体にてらして、演出とはなにか、この名称と枠の決めかたが、すでに、現実に即していないのではないか、関東と関西

演出者賞

香西 久

N H K



昭和3年10月東京生まれ。昭和26年早稲田大学を卒業してNHKに入り、AKラジオで海外ドラマ特集や長時間ドラマ「日本の岬」などを演出。35年大阪に移りBKのラジオドラマ演出を数多く手がけた。昭和38年再び東京にもどり、イタリア賞参加「銀河鉄道」などの演出にあたった。昨年度の作品は「ある男の塑像」「千羽鶴」など。

現在、芸能局ドラマ班チーフディレクター。

ドキュメンタリーのケース、シヨウ番組、報道処理、企画と制作と担当の不明確さなどを、語りつつ、自然現象のように、今回の受賞対象をしぼっていった。

河野宏君が、最有力と出た。しかし、「ポーラ名作劇場」が、あれだけ、実質的な放送ドラマの追求と積み重ねに、ひとつの安定性と英智と意欲を示しえたことは、やはり無視できぬ。やはり、グループの協力に敬意を表するほうを、われわれ全員は、適確だとしたのである。従って、河野宏「ながい坂」八橋卓「夕焼空」吉武富士夫「花のながれ」久野浩平「ぎんぎんぎらぎら」山内和郎「霞」勝田康三「坊ちゃん」と私」須田雄三「積木の箱」田中利一「おもんの愛」すべてを含むこととなる。それで、なおさら、意味のある結果になったと思う。これらの作品は、四三年度の、わが国のテレビ作品を、代表するばかりでなく、明日への指針となりうるものと確信する。演出とは、こころの問題と教えた。

ラジオ部門での香西久君は、「春琴抄」から、「ある男の塑像」をへて、「千羽鶴」にいたる名作文芸の処理の、海外作品の日本化等に、さすがだと思わせるものを残した。ラジオオととも歩んできたことの実績を、しみじみと、感じとりえた。

男性演技者賞

川崎敬三



昭和8年7月川崎市生まれ。昭和29年大映に入社、39年に退社してフリーとなるまで同社の二枚目スターとして活躍した。映画、「氾濫」「旅情」など。TVは「さだまささん」(TBS) スター劇場(NTV)「花いちもんめ」(フジ)「フルーツシリーズ」(NET)「開化探偵帳」(NHK) 現在出演中などがある。

ともに将来を……

大垣 肇

第一次、第二次のアンケートをもとに、最終選考委員会にかけられたのは、男優部門で川崎さん以外に十二名、女優部門で栗原さん以外に十五名であった。各委員討論の結果、その中から更に次の各氏に選ばれた。

すなわち——男優部門では、川崎敬三、藤岡琢也、金田竜之介の三氏、女優部門では、栗原小巻、京塚昌子、浅丘ルリ子、長山藍子、三田和代、九重佑三子の六氏である。

われわれは原則を功労賞的な意味はおかず、将来への可能性においた。むろん、この賞は年度賞であるから、対象となったのはその年度に発表された作品である。その結果、次の二氏に贈賞と決定したわけだ。三時間にわたる討議の末、満場一致の結論であった。

女性演技者賞

栗原小巻



昭和20年3月14日生まれ。昭和41年俳優座養成所を15期生として卒業。現在、劇団・俳優座所属。TVの主な出演作品は「みつめいたり」「虹の設計」「アデイオス号の歌」「三姉妹」「今年の恋」「ゴメスの名はゴメス」「なかよし」「三人家族」「風林火山」など。舞台は「三人姉妹」がある。

川崎敬三氏(「フルーツポンチ3対3」「ハ

トポット嫁さん」「開化探偵帳」等)は、これまで映画のジャンルに於いて、二枚目俳優としては長い間模索低迷の時代が続いていたように思う。それが近来、テレビ部門に於いて、二枚目半、或いは三枚目への脱皮を自発的に志してからの演技開眼は、まことにめざましいものがある。脚本への適確な理解を基礎として、発声、身ぶり。表情の三表現において、スクリーンでも舞台的でもない。独自のテレビ演技を開拓している点、将来への大きな期待を抱かせる。

栗原小巻さん(「みつめいたり」「三人家族」等)は、娘役としての清純な印象を単なる素材の優秀さにとどめず、脚本の真髄をよくつかみ、自己の芸域を一作ごとに深めていった真摯な努力を高く評価する。旧作より近作にいたる演技の脱皮の発展には、目をみはらせるものがあり、演技派女優としての将来を期待させるに充分である。

大衆芸能賞

一竜斎貞鳳



大正14年9月1日生まれ。昭和13年小学六年の時横浜で一竜斎貞丈師に入門。昭和21年一竜斎貞鳳の名をもらい以後講談の他、司会者としても今泉良夫の名で活躍した。昭和29年10月真打となり、数多くの勉強会や、「みんなの講談」などを通じて、講談を若い人たちにも親しめるものにするため努力をつづけている。またTVやラジオの時間にあわせた新しい形の講談を創りだすなど、講談の現代への復活のためにつくしている。

放送講談に新風を

内山惣十郎

大衆芸能賞部門のアンケート最終集計では

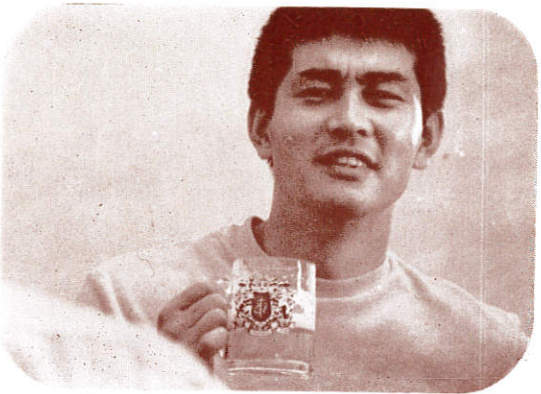
一竜斎貞鳳 五一票
コント55 五一票

で、最多票獲得者が奇しくも同点となり、この両者について各選考委員から腹藏ない意見が討論された。

貞鳳君が斜陽化した講談界にあってその孤塁を守り、NHKの連続新講談『遜悟空』其他で、8分10分という短い放送時間に、従来の講談の型を破って、新鮮で面白く愉しい放送講談の分野開拓に努力を傾け、かつてのラジオ講談黄金時代を盛り返そうと、必死になつての孤軍奮斗の熱意と真剣さを高く評価し、各委員は貞鳳君の努力と今後の活躍に期待して、全員一致で四十三年度(第九回)の大衆芸能賞の受賞者に推薦した。

CM作品賞

「純生は生きてる」



サントリー株式会社

企画 サントリー株式会社
制作 株式会社サン・アド
創業明治32年、「洋酒の寿屋」としてながく親しまれ、今日では名実ともに「世界の名酒サントリー」に成長した。画期的なビン詰生ビール「純生」を発売して以来、ビールのフレッシュ時代を拓いて、若者のビールとして着実に伸びている。純生の広告も新鮮さをテーマに純生ブルーの色調に統一され、清潔で若々しい印象が強い。
本社 大阪市北区中之島二ノ三
東京支社 中央区日本橋通一ノ四 栄太楼ビル

「純生は生きてる」が 選ばれるまで

玉川一郎

全会員に求めたアンケートの第二次締切り間近かになって、「純生は生きてる」の推薦が集中して候補に登場した。

現代的で魅力のあるシングルと楽しく編集された明るい画が幅広い年齢層に訴求し、新鮮なイメージを印象づけた、と言うのが理由である。

これに対抗して最後迄残ったのが、日本油脂の洗剤「バリ」で、結局決戦投票に勝ち込み、過半数票を獲得した「純生は生きてる」が受賞と決定した。

「しかられた子供」の素晴らしい表情の魅力も、「音」のグラスをハネ返すことは出来なかったとも言える。「パイロット・エリートS」、「カルピス」、「ハナマルキみそ」ラジオの「日石チェーンナップ・ジョッキ」等も多数の支持を得ていた事を、あわせて報告する次第である。

受賞者一覽

日本放送作家協会賞

- 第一回
 企画賞「日本の素顔」(NHK)
 演出者賞 せんぼんよしこ(NTV)
 男性演技者賞 松村達雄
 女性演技者賞 黒柳徹子
 スポンサー賞 東京芝浦電気株式会社
 TRG賞 和田勉(NHK)
 サンキュー賞 文化放送本社受付一同
 館野淑子(TBS受付係)
- 第二回
 企画賞「兼高かおる世界の旅」(TBS)
 演出者賞 山田智也(ABC)
 男性演技者賞 ハナ肇とクレイジーキャ
 ッツ
 女性演技者賞 池内淳子
 スポンサー賞 株式会社資生堂
 エスビー食品株式会社
 TRG賞「娘と私」番組関係者(NHK)
 サンキュー賞 東京新聞ラジオテレビ欄
- 第三回
 企画賞 中川忠彦(NHK)

- 演出者賞 田甫一郎(NHK)
 橋本信也(TBS)
 男性演技者賞 芦田伸介
 女性演技者賞 大空真弓
 スポンサー賞 三共株式会社
 TRG賞「夫婦百景」(NTV)
 サンキュー賞 東京放送劇団
 ニッポン放送効果班
 特別功労賞 吉田秀雄

- 第四回
 企画賞 大映株式会社テレビ室
 演出者賞 八橋卓(NET)
 演出者賞 山口淳(NHK)
 男性演技者賞 藤田まこと
 女性演技者賞 中村メイコ
 大衆芸能賞 古今亭今輔
 CM作品賞 セイコー企業CFの製作ス
 タッフ
 スズキ自動車工業CFの製
 作スタッフ
 スポンサー賞 近畿日本鉄道株式会社
 TRG賞 梅本重信 NHK
 サンキュー賞「チロリン村とクルミの木」
 関係者一同
- 第五回
 企画賞「風雪」(NHK)

新人脚本賞・久保田 万太郎賞について

ことし三回目を迎える新人脚本賞、第六回に当る久保田万太郎賞(脚本賞)については、残念ながら、今回は贈賞を行わないことになった。

新人脚本賞については、これまでの審査基準を、主として放送された作品においていたが、昨年度においては新人脚本による放送が殆んど行われなかったというのが現実であったし、また久保田万太郎賞の場合も、詮衡基準がオリジナルのもの、単発ものを中心におかれていたので、昨今のような放送界の現実では候補作品を選ぶのに非常に困難であった。われわれが敢て、該当作なしとせず、見送りという形をとった真意を諒とせられたい。

なお、次回からは放送界の現実にあさわしい詮衡基準に改めるべく検討中であるが、こういう歪んだ昨今の傾向に対しても、われわれは積極的な働きかけを惜しまないものである。

日本放送作家協会賞選考委員

最優秀番組部門 委員長 久板栄二郎
 委員 伊藤海彦 伊崎裕弘 伊馬春彦 岩間芳樹
 内村直也 内山惣十郎 大垣 肇 菅原 卓
 田井洋子 高橋玄洋 玉川一郎 寺島アキ子
 西島 大 早坂 暁 村田修子

演出者賞部門 委員長 菅原 卓
 委員 砂田量爾 長尾広生 本田 暁 水原明人
 山下与志一 若杉光夫
 男女演技者賞部門 委員長 大垣 肇
 委員 青江舜二郎 今崎晁巳 宇津木澄 大野清子
 岡田 晋 近藤若菜 保利吉紀 矢代静一

大衆芸能部門 委員長 内山惣十郎
 委員 金田達夫 木村学司 神津友好 小島貞二
 鈴木みちを 野口いさを 福井貞則 松浦泉三郎
 CM作品賞部門 委員長 玉川一郎
 委員 阿部正人 大橋公威 門川美代子 狩野新
 来宮洋一 高橋克雄

新人脚本賞部門 委員長 伊藤海彦
 委員 安倍徹郎 上野一雄 大藪郁子 岡本克巳
 森永武治
 久保田万太郎賞選考委員会 委員長 内村直也
 委員 江上照彦 大林 清 小野田勇 阪田寛夫
 毛利恒之

協会賞式典委員会 委員長 久板栄二郎
 委員 宇津木澄 門川美代子 狩野新 神津友好
 高橋玄洋 西島 大 水原明人

社団法人 日本放送作家協会事務局
 東京都中央区銀座七四一七 銀座電通ビル
 電話(五七)〇二七八・〇八八二・〇三九九

演出者賞

久野浩平(RKB毎日)
 「シルバードグレイの空間」演出
 グループ(ニッポン放送)

男性演技者賞 今福正雄
 女性演技者賞 南田洋子
 大衆芸能賞 牧伸二
 TRG賞「おかあさん」(TBS)
 「山本富士子アワー」(フジテレビ)

CM作品賞「アイデアル」
 サンキュー賞「オヤカヤ氏とオイソガ氏」
 (文化放送)

第六回

企画賞「日産スター劇場」(NTV)

「日本の謎」(毎日放送)
 演出者賞 岡山高幹(フジテレビ)
 男性演技者賞 長門裕之
 女性演技者賞 小山明子
 大衆芸能賞「お笑い三人組」関係者(NHK)

特別賞「FM名作劇場」(NHK)

「木島則夫モーニングショー」
 司会者トリオ(NET)

CM作品賞「文明堂豆劇場」文明堂
 サンキュー賞「お天気ママさん」(TBS)

第七回

最優秀番組賞「現代の映像」(NHK)

演出者賞

テレビ部門 今野勉(TBS)
 ラジオ部門 田辺春夫(NHK)
 男性演技者賞 中村錦之助
 女性演技者賞 佐藤オリエ(俳優座)

大衆芸能賞 獅子てんや・瀬戸わんや
 CM作品賞 パイロット万年筆株式会社
 新人脚本賞 渡辺やえ子「町」「バラのとげ」
 蕪木利代「賽の河原の鬼」
 姿

第八回
 最優秀番組賞「広島原爆三部作」
 演出者賞 小川 秀夫
 テレビ部門 沖野 暁(NHK)
 ラジオ部門 渥美 清
 男性演技者賞 渡辺美佐子(新人会)
 女性演技者賞 桂 米 朝
 大衆芸能賞 「トヨタカローラ」
 CM作品賞 「トヨタ自動車販売」
 新人脚本賞 戸麻竜悟「うたでなや」
 久保田万太郎賞

第一回(39年)
 毛利恒之「十八年目の召集」
 寺山修司「犬神の女」
 第二回(40年)
 茂木草介「兎追いし」「ニューヨークの日
 本人」「逃し者」

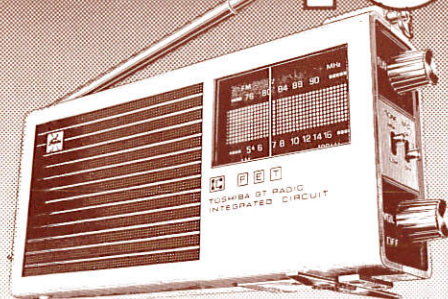
第三回(41年) 該当なし
 第四回(42年) 該当なし
 高橋玄洋「いのちある日を」(NET)
 小野田勇「おはなはん」(NHK)

第五回 田 寛 夫「花子の旅行」(TBS)

未来から来た ラジオ



IC 70



驚異のFM超高感度を生む

IC + FET

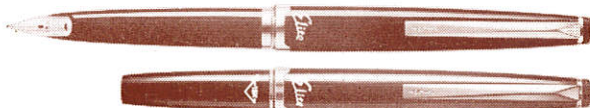
〈IC 70〉 現金定価 8,900円
月賦定価 9,400円(7回)

東芝GTラジオ



ハツパふみふみ18金ペン

パネロットエリートS



ペン先の太さ・硬さのちがう4種類がそろっています
2000円・3000円

いま
日本中で
話題のペン!!